



伊藤若冲生誕 300 年記念企画 ローズ羽毛掛けふとん発表

京都細見美術館協力により、若冲の緻密で力強い作品を大胆に表現しました

株式会社京都西川(本社:京都市下京区 社長大河内徹心)は、本年西川創業450周年を迎えました。この記念商品として、今年生誕300年を迎える天才画家伊藤若冲の緻密で力強い作品を、細見美術館の協力を得て、高解像度インクジェットプリントにより美しいテキスタイルに再現、ローズ羽毛ふとんに仕立て上げました。



「雪中雄鶏図(せっちゅうゆうけいず)」柄



「糸瓜群虫図(へちまぐんちゅうず)」柄

○天才画家 伊藤若冲(いとうじゃくちゅう)とは

1716年、尾形光琳が逝去したその年に京都の中心に位置する錦小路の裕福な青物問屋「枳屋(ますや)」の長男として誕生し、本年で生誕300年を迎えます。

10代の頃から絵画に興味を抱き、様々な絵師の影響を受けながら独自の画風で写実描写様式を完成させていった若冲は、卓越した描写力と独創的な画面により、江戸中期の京都画壇に旋風を巻き起こします。奇想の画家として1800年84歳で逝去するまで、生涯独身であり酒や芸事の世間の雑事には全く興味を示さなかったと伝えられています。独創性豊かな京都を代表する絵師として広く知られるようになった若冲の作品は、宮内庁を始め寺社仏閣、国内外の美術館、個人所蔵も含め数えきれない作品数となっています。動植物をモチーフにした作品がほとんどですが、特に鶏を好み多くの作品を残していることでも知られています。

○「雪中雄鶏図（せっちゅうゆうけいず）」柄（京都 細見美術館所蔵）

降り積もる雪の中、餌を探して佇む雄鶏。

雪中における雄鶏の存在感は、真っ赤な鶏冠や漆黒の尾羽といった色のコントラストだけでなく、この画家の傑出した写実力に驚かされます。また鶏は中国では「徳のある鳥」とされ、孤高な雄鶏の姿に若冲は自身を重ねているとの解釈もあります。鶏の緻密な描写や奇怪な形の竹などに、後年に発揮される彼の偉大な作風の芽を見いだす作品です。落款と印章から家業を勤めていた江戸中期、30代半ばの頃の作品で、現在知られる若冲画の中では最初期のものと言われています。

本商品の裏面には「雪中雄鶏図」をトーン調にデザインしています。



○「糸瓜群虫図（へちまぐんちゅうず）」柄（京都 細見美術館所蔵）

極端に長細い糸瓜に自由奔放に群がる様々な虫たち。細部を丁寧に描き出しているところに若冲の自然への驚異や愛着が感じられます。糸瓜に同化しているように見える虫たちは、合計 11 匹が描き込まれています。中国の草虫画の様式を取り入れながら独自の視点による表現に挑んだ作品です。

「平安若冲製」の署名・印章から江戸中期の 38 ～ 39 歳頃の制作と言われています。後に富岡鉄斎がこの絵の模写や箱書きしています。

本商品は「糸瓜群虫図」をもとにふとん用の構図に引き直しています。



○ローズ羽毛掛けふとん

ふとんがわ／綿 100%（ペルー綿 80 サテン）

詰め物／ダウン 95%・その他の羽毛 5%（ポーランド産コウダ種ホワイトグース使用）1.2kg

シングルサイズ（150×210cm）本体価格 250,000 円 + 税

■本件に関するメディアからのお問い合わせ先
株式会社 京都西川 営商企画本部 担当／久保・白鳥
〒600-8502 京都市下京区河原町通松原上る幸竹町 385
TEL 075 (351) 1351 (代表)

since 1566
450th
ANNIVERSARY
おかげさまで、
西川創業450年。

 **京都西川**